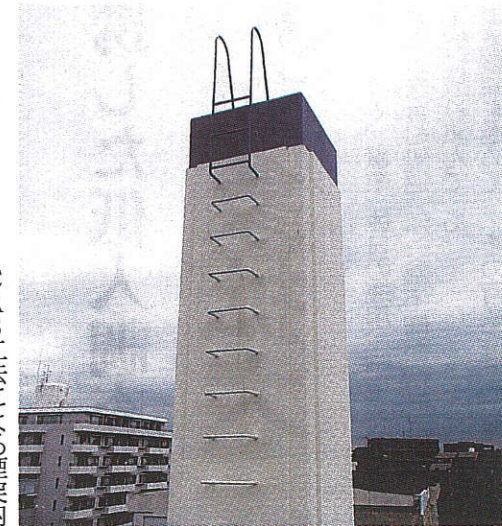


アスベスト煙突を

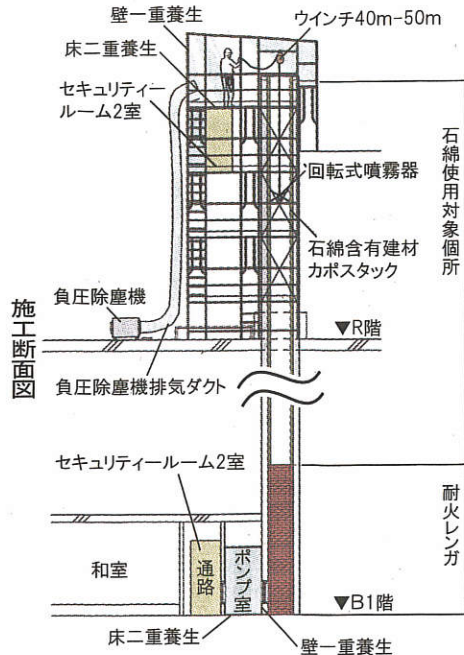
無害化



建物と一体化した「アスベスト煙突」は市中に普通に存在する

市中の建物と一体化した「アスベスト煙突」への対応が急務となっている。国内唯一のアスベスト(石綿)無害化処理工法(CAS工法)をベースに数多くの建築物のアスベスト無害化を手掛けてきたエコ・24(本社・東京都港区、波間俊一代表取締役)は、近年、文教施設や公共施設の煙突に使用されたアスベストの無害化対策に追われている。昨年3月には千葉県内の公共施設の煙突内部のアスベスト封じ込め修繕を終えた。無害化処理により煙突と施設の継続的な利用ができる。養生なども含めた工期は6日間程度と極めて短いのも特徴だ。簡便性に優れ、短工期、低コストで施設を運営しながら確実にアスベストを無害化できるので、小・中学校や民間施設などの管理者からの問い合わせも多く来ている。

エコ・24



CAS工法による煙突内部のアスベスト封じ込めは、所定の養生、負圧除塵機などを設置した上、ウインチ(小型巻揚機)を使って回転式噴霧器で無害化剤・エコベスTを煙突内部に吹き付けて浸透固化するという簡易なものである。現場条件にもよるが、足場設置も煙突塔屋部分のみ。千葉県内の公共施設では、建物と一体化した冷温水機、非常用発電機の排気用煙突内部に断熱材として使用されているアスベストの無害化を実施。長さ三十数メートルの煙突の処理を養生、片付けも含めて6日間で行った。簡便性に優れ、短工期、低コストで確実にアスベストを無害化し、既存の施設を継続して使うことができるのがメリット。

CAS工法で養生含めて6日

厚生労働省は2012年7月、劣化した煙突用断熱材の扱いに注意するよう事業者に通達。14年6月に施行した改正・石綿障害予防規則では、石綿含有煙突(レベル2建材)の劣化などを問題視し、吹き付け石綿と同様、劣化・損傷した保湿剤や耐火被覆材の除去、封じ込め、囲い込みなどの措置をとることを事業者が義務付けた。文部科学省はこれを受けて、全国の学校や教育施設に石綿保湿剤などの使用状況調査を依頼、昨年10月まとめた。煙突で「損傷、劣化等による石綿等の粉じんの飛散により、ばく露のおそれがあるもの」が多数あることを踏まえて、各都道府県教育委員会、都道府県知事らに注意を促した。その中で煙突について、特に建材の劣化が激しい場合は▽煙突からアスベスト繊維を大気中に発散させる▽煙突内に入った雨水などを排水する▽ドレン管から排出される▽剥落して最下の掃除口に堆積した石綿含有断熱材等を灰と誤って一般のごみとして廃棄される——といった例もあることを指摘した。昨年10月に公表された文科省の実態調査では、全国の公立・私立小・中・高等学校などのうち33都道府県の210校で、煙突に使用されたアスベストが飛散し、児童・生徒らが吸い込むおそれがあることが判明した。中皮腫や石綿肺などを引き起こす可能性があり、各自治体はその対応に追われている。

また、煙突のアスベストは、学校などの公共施設だけでなく、民間のオフィスビルや商業施設にも多く使われている。これまで、ほぼ手つかずとなってきた町中の建物と一体化したアスベスト煙突への対応は緒についたばかりだ。

安全大会

末尾の数字は開催月日

スパイラルアップを 飛鳥建設首都圏建築

飛鳥建設首都圏建築支店と飛鳥協働会首都圏建築支部(笹原孝志支部長)は、川崎市のKSPホールで2016年度安全大会を開いた。写真。大会には約230人が参加した。



中野正巳建築部長による開会の辞に続き、荒尾拓司常務執行役員(首都圏建築支店長)があいさつに立ち、「現状に満足せず、継続的に効果的な安全活動をスパイラルアップさせ、労働災害防止にまい進しなければならぬ。労働災害ゼロを目指す」と呼び掛けた。引き続き笹原支部長が、「会員は、安



安全は品質担保の上 東鉄工業

東鉄工業と安全衛生協働会(後藤五十里会長)は、東京都千代田区のホテルメトロポリタンエドモントで、2016年度安全大会を開いた。写真。同社と協働会社から約200人が出席し、さらなる安全衛生活動の推進を誓った。後藤会長は冒頭、「(東鉄工業)の安全衛生管理計画に示されている「究極の安全と安心」を追求することの重要性を理解し実行しなければならない。われわれの最大の使命は安全だが、これは品質が担保された上での安全である」と訴えた。

区のホテルメトロポリタンエドモントで、2016年度安全大会を開いた。写真。同社と協働会社から約200人が出席し、さらなる安全衛生活動の推進を誓った。後藤会長は冒頭、「(東鉄工業)の安全衛生管理計画に示されている「究極の安全と安心」を追求することの重要性を理解し実行しなければならない。われわれの最大の使命は安全だが、これは品質が担保された上での安全である」と訴えた。

安心してできる職場環境
竹中道路

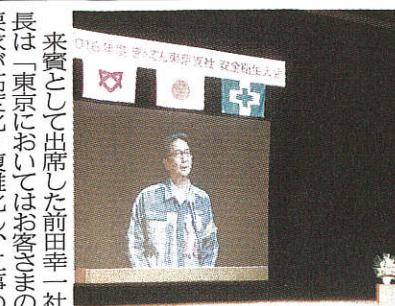
竹中道路東京本店と東京地区行互会、東京工場竹互会、東京都中央区の日本橋社会教育会館で2016年度安全総大会を開いた。写真。約140人が出席した。藤本庄一社長は「安全は会社経営の礎であり、全社員、全協働会



安全衛生管理中央委員会の木原 賢二委員長は「組織的、計画的、継続的な安全管理活動を推進し、快適な明るい職場づくりを目指していかねばならない」と述べ、一層の協力を呼び掛けた。全国竹互会の荒尾春秋会長は「労働災害防止活動の大切さを再確認し、積極的に安全活動に取り組み、実践していく」と力を込めた。

事前調査に妥協なく きんでん東京支社

きんでん東京支社(林弘之常務執行役員東京支社長)は、東京都



来賓として出席した前田幸一社長は「東京においてはお客様の要求が高制度化・複雑化し、工事の難易度が高くなっている中、工程遅れや厳しい現場環境が続いている。品質安全で大きな期待をされている東京支社は、現場の皆さんと一丸となって繰り返し災害の撲滅に努力してほしい」と呼び掛けた。東京支社ではこのほか、東関東